Sep. 20, 1997：西表島仲間川林道

午前中に一時を過ごした林道でしばらく粘ってみるが，T さんのいわれた通りでヤエイチの活動時刻は過ぎたらしい．ちょうど木陰のトゲのある厚手の植物葉上に止まったクロセセリを Video で狙うも映像としては記録できず．偶然にもオキナワビロードセセリの産卵状況を目撃できてクロヨナという植物がマメ科といいながら結構な大木であることを知る．この木が陰を落とす地面すれすれにヒョイヒョイという感じで忙しく飛び回るヒカゲチョウをネットインすると，なんと後翅が大きく欠損したシロオビヒカゲ．そういえば近くに竹薮がみられ納得．蝶採集案内書に従って薮を叩いてみるがシロオビヒカゲは踊らず．

Nov. 3, 2003：与那国島 2 日目

幸い 2 日目も好天気．飛行機の時間までせいいっぱいのチョウタイムを楽しまねば，と朝食をさっさと済ませて，アギンダへ．昨日の活動で勝手がわかった場所だけに各人各様にネットを片手に目をこらす．以前にくらべて栽培園の管理がおろそかになっている気配が濃く，道路沿いにはススキの類がはびこっている．そのせいかクロセセリの静止する姿が目に入り，デジカメで撮影を試みるが，よくばって接写距離を縮めていいアングルを選んでいるうちに飛び去られる．

Sep, 19, 2004：石垣島オモト林道

於茂登山麓のシロウラナミシジミを最後のチョウタイムとする目的で於茂登トンネル経由のルートをとりシロウラナミシジミの観察場所へと進む．MK さんからまだあまり蝶屋には知られていないと教えていただいたポイントのはずだが，オモト林道で出会った同好者が先にきていて 2,3 人が白いネットをゆらしている．KT さんを誘って，昨年ウコンの花を見せてあげた場所に行ってみるとそこはすっかり荒れ地と化している．足元の草葉上にとまっているクロセセリに気づき KT さんにネットインを勧めるも，まわりの草がじゃまをして逃がしてしまう．

Sep. 20, 2004：石垣島オモト林道

シロウラナミシジミがいる可能性の高い畑と道路との境界部分に入り込んでブッシュを叩いて回ることにする．背の高い男性は「畑には絶対に入らないほうがいいよ」と忠告してくれるが，あくまで畑の中ではなく林縁を歩くだけだからと観察を続ける．KT さんもついてきていつの間にかクロセセリをネットインし，これは何，と見せにくる．「きのうとり逃がしたクロセセリじゃないか．完璧な新鮮個体だよ．やったね」とやりとりしていると，・・・・

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.

TV の天気予報は朝から雨で、12 時頃に曇り空のタイミングがあってまたすぐに雨だという。実際、目覚めた 6 時頃にはもう降っていたが、朝食を終えた 8 時頃には雨が止む。それでも晴れ間がないなか、どこに行けばいいのか。最も近い八重岳ではコノハチョウがいた場所でなにか出会いがありそうな予感があり、着いた時点ではアザミを訪れたシロオビアゲハをみるだけだったが、カメラ片手に歩く遠方ガードレールの支柱上面に何かがいる。これまで何度か静止状態を目にしながらすぐに飛び去られて画像記録が残せていないクロセセリだ。左後翅が少し傷んでいる。接近しすぎるとあっというまに飛び立ち、めまぐるしい飛翔で路傍の草地を飛び回るが、じっと待っていると斜面のシダ類の葉上で休み始める。あいかわらず多いイシガケチョウがあちこちで追飛翔を繰り返すが、コノハチョウは姿をみせず。昨日も見たリュウキュウヒメジャノメはこの日も多く、ただおとなしいチョウだと思っていたが、シロオビアゲハがそばを飛ぶととびかかる光景も目にする。クロセセリがいたわけは、路傍にゲットーが多いことで納得がいく。と、再び素早く飛ぶクロセセリが目に入り、やがて小さなカタツムリとのツーショット。これは先ほどの

左後翅が破損した個体ではなく、新鮮で、先ほどの個体同様に草葉上へと転飛して V 字開翅姿勢でモデルとなってくれる。雨が来ないうちにここよりは多くのチョウとの出会いが期待できる伊豆味地区へと移動。その伊豆味でもクロセセリに出会うことができる。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.